

この森は、ブナ林・ミズナラ林・アカガシ林・コナラ林・アカマツ林・スギ・ヒノキ林の多様な林で構成されています。暖帯のアカガシ林と温帯のブナ林が隣接しており大変珍しい森です。また、森の中心には山門湿原があり、近畿でも珍しい高層湿原で貴重な植物ミツガシワなどが残っています。



3万年もの時を経て今ここに受け継ぐ  
私たちが今学ぶこと

## 山門水源の森

約3万年前に誕生した「山門水源の森」。西浅井地域に残るこの湿原は、貴重な生物の宝庫となっています。ここはかつてゴルフ場に開発される予定でしたが、平成8年3月に滋賀県によって買い上げられ、豊かな自然と貴重な生物を保全するための活動が始まりました。

活動当初は、森の生態系が破壊される恐れもあり、保護が必要であったため、一般に公開されていませんでした。しかし、湿原の保護活動が進むのに合わせて、ハイキングコースの案内板や自然観察のための解説板、展望台が整備され、平成13年度からは、散策コース4.3Km、健脚コース5.0Kmの2つのハイキングコースが設けられました。

このような施設の整備により、自然観察やハイキングのために訪れる人が増えていきました。平成7年には林野庁「水源の森百選」に、平成13年には環境省「日本の重要湿地500」に選ばれています。このように豊かな自然を誇る「山門水源の森」では現在、この森に生息する生物の保全が急務の課題となっており、地域住民はもとより、行政や関係機関とのパートナーシップによる取り組みが不可欠です。現在は、ボランティア団体「山門水源の森を次の世代に引き継ぐ会」による主体的なパトロールが続けられ、保全活動が進められています。

市内にはこの「山門水源の森」の他にも多くの自然豊かな環境が残っています。それらは地域住民を中心に「貴重な自然環境を守り育てたい」という志ある人たちの活動によって支えられています。

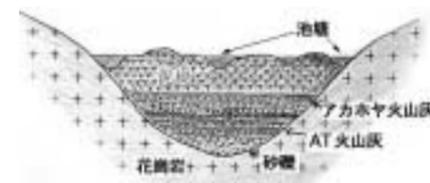
豊かな自然が残る場所へハイキングに出かければ、体を動かすことができ、日常生活のストレスも解消できるなど、健康づくりにも役立ちます。また、美しい草花や森の生き物の観察など、普段はできない体験をすることもできます。

市内に数多く残る自然環境は私たちみんなの財産です。この大切な宝を子や孫にしっかりと引き継ぐため、できることから少しずつ自然環境保護を心がけていきましょう。

市内にはこの「山門水源の森」の他にも多くの自然豊かな環境が残っています。それらは地域住民を中心に「貴重な自然環境を守り育てたい」という志ある人たちの活動によって支えられています。

豊かな自然が残る場所へハイキングに出かければ、体を動かすことができ、日常生活のストレスも解消できるなど、健康づくりにも役立ちます。また、美しい草花や森の生き物の観察など、普段はできない体験をすることもできます。

市内に数多く残る自然環境は私たちみんなの財産です。この大切な宝を子や孫にしっかりと引き継ぐため、できることから少しずつ自然環境保護を心がけていきましょう。



## 山門湿原が約3万年前にできたって、どうしてわかるの？

湿原がいつできたのかは、その内部の堆積物中に含まれる火山灰を調べることによってわかります。山門湿原には、始良火山灰と、アカホヤ火山灰とがみつかっています。このうち始良火山灰は、今から2.5万年前に九州の鹿児島から飛来したものです。またアカホヤ火山灰は約6300年前に鹿児島島のさらに南の喜界島から飛んできたものです。

火山灰が飛来した時期と地層の厚さなどを考え合わせ、山門湿原はおよそ3万年前にできたと推測されています。



### ミツガシワ

一属一種の多年草。日本を含め北半球の主として寒冷地に分布し、湿地や浅い水中に生える。地下茎を横に伸ばして広がる。葉は複葉で3小葉からなる。4-5月に白い花を総状花序に多数つける。亜寒帯や高山に多いが、京都市の深泥池や東京都練馬区の三宝寺池など暖帯の一部にも孤立的に自生している。これらは氷河期の生き残り（残存植物）と考えられ、これらを含む水生植物群落は天然記念物に指定されている。



## 高校再編についてのお知らせ

**Q** 現在の中学3年生は、間もなく進学先を選定する時期が迫っている。後輩もない、部活や体育祭ができないかもしれない。そのような高校には行きたくない。来年度の募集があっても選択できないのではないかと。

**A** 統合校の支援策についてはいち早く取り組む必要がある。並行して考えている。選んでよかったと言ってもらえるよう、しっかりと取り組んでいきたい。

**Q** 回答になっていない。進学を前に皆切実である。「これから考えます。」と並行して考えます。「ではものすごく遅い。保護者の代表として来ているが、これでは学校に帰って多くの保護者に説明できない。明確に回答願いたい。」

**A** 間違いない取り組ませていただくことか今は言えない。

**Q** なぜこのような説明会をもっと主体的に回数を増やさないのか。

**A** 要請があれば説明させていただく形をとりたい。

**普通科の削減について**

**Q** 長浜北高校と長浜高校で一学年7学級を想定されているが、全国平均(5.5)学級から少ないのかなり多い。結局、財政問題で統合という話になっているのではないかと。いかに学力を上げるかを考えてほしい。虎姫高校以外に北星高校の生徒を増やすということだが、普通科定員を増やすべきではないか。

**A** 長浜北高校と長浜高校で減った3クラスをどうするかということであるが、総合学科は普通教育、専門教育を選択し学習できるということで、北星高校の普通系列の数を増やすことで検討しているのではないかと考えている。

**Q** いきたい。

**A** いつまでにとどのようかを示すかスケジュールを言って欲しい。

**A** たくさんの意見を整理している段階で、日にちを区切っては無理。

**Q** 中学の先生方はどのように進路指導するの。県教委が決まらぬのに現場は動けない。どのように進めるのかはつきり示してほしい。

**A** 進路指導のこともあるので、できるだけ早く対応させてもらう。今年度中として申しあげられない。

**意見** のらりくらり、真剣に考えているとは思えない。我々は子どもをもつ親として非常に心配している。「考えます。検討します。」では議論にも回答にもならない。もう少し真面目に考えてほしい。

説明会の終わりに、市PTA連絡協議会会長があいさつに立ち、「今回の説明会では何も得るものがなかったのが正直な印象。とてもこのままでは、長浜北高校・長浜高校には子どもを行かせられない。」と述べられました。また、参加者に「今回の説明で納得された人は挙手を」と求められましたが誰も手を挙げず、次に「白紙撤回と思われ方は挙手をお願いします。」との問いに参加者の全員が挙手。「これが保護者の意見です。」と締めくくられました。

## 市内各小中学校PTA役員を対象とした説明会の開催

8月24日に長浜市民交流センターで小中学校のPTA役員を対象に説明会を開催しました。約140人が出席したこの説明会には、滋賀県教育委員会から教育長や職員が訪れ、今回の再編計画の説明や、意見交換が行われました。今後、子ども達の進路に大きな影響があることから、保護者の皆さんからはたくさん不安の声があがっていました。

説明会時の主な質問と回答は下記のとおりです。  
【詳細な会議録は市ホームページに掲載していますのでご覧ください。】

**地域内の定数確保について**

**Q** 定数確保について、計画には統廃合のみで他校の定数確保が示されていない。

**A** 現段階でははっきり示せない。毎年度卒業生の数を考慮して決める。

**Q** 一番には財政ということは一応ある。しかし教育論の中でいかに将来を担う人材の育成や、個人の資質や教養を身につけていくかなど配慮している。定数も充分入れるだけの定数にする。虎姫高校では8クラスまでいける要素はある。

**計画のタイムスケジュールについて**

**Q** もっと学校現場の話聞いてほしい。変更または白紙撤回になる可能性があるのか、今後のスケジュールを聞きたい。周知は、学校長からPTA会長、保護者へと手順を踏んでいただきたい。道理が通れば反論しないし、政治的なことなどには利用されたくない。

**A** 説明はさせていただく。計画を策定していく段階では、手順を踏み、今までの意見を踏まえ、今年度中には策定して

**長浜市PTA連絡協議会と長浜市連合自治会から要望書が提出されます**

今回の保護者への説明を受け、市PTA連絡協議会には、案の白紙撤回を要望されます。また、市連合自治会も、まちづくりには大きな影響を与え、提出されることになりました。

**問** 企画広報課 (☎65-6505)